

◆まちづくり地域優良事例集◆



令和 5 年(2023 年) 3 月

熊本市

地域の取組事例一覧

区	まちづくりセンター	取組事例
中央区	中央区	白川夜市
		近未来キャラバン
東区	託麻	小山山の里山整備事業
	秋津	横井小楠顕彰会
	東部	鳥井原公園四ッ角マーケット
西区	西部	あじうのいけ 味生池周辺エリア振興協議会
	河内	河内町せせらぎ会
	花園	池田ふれあいランチ事業
南区	富合	想いをつなぐイルミネーション
	飽田	ながなすコンサート
	天明	加勢川開発研究会
	幸田	まちづくりサロン in 幸田
	城南	TEAM 城南ワンダホー
	南部	川尻お寺 de フェスタ
北区	植木	植木寺子屋事業
	北部	彼岸花ロードハイキング
	清水	鯉のぼり集中展張
	龍田	龍田プレイパーク

◆まちづくり地域優良事例集◆ 中央区まちづくりセンター

白川夜市



〈取り組みの内容〉

水辺の新しい可能性を創造するプロジェクト『ミズベリング』の一環として開催。水辺空間を有効活用することで地域活性化を目指す『白川「緑の区間」利活用推進協議会』を中心に、市民や企業、行政が一体となって取り組んでいます。2019年3月から毎月第4土曜日に白川河川敷「緑の区間」で開催。バラエティに富む飲食店や物販店が大集合します。

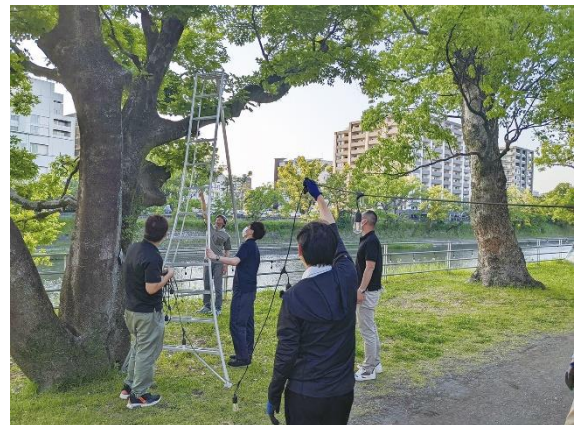
〈取り組みで大事にしていること〉

開催するには、地元の理解やサポートが必要です。会場近くに
住む方々に嫌な思いをさせないようにするのはもちろん、ニーズにしっかり応え、喜んでいただけるような企画や、出店者を
チョイスするように意識しています。ご家族での来場も多いので、子ども向けのコンテンツも欠かせません。

〈取り組みを始めようと思った経緯・きっかけ〉

“水辺で人々が交流する場を作りたい”

国土交通省のプロジェクト「ミズベリング」が始まったことで、全国的に水辺利用の機運が高まりました。熊本市でも、国交省と市が共同でマルシェを開催し、それに来店をしてみたら予想以上に反響がありました。にぎわいづくりのイベントは、継続してこそ意味があると思い、水辺に人々の交流の場を作るべく「白川夜市」を開催することになりました。



白川夜市の準備の様子

〈取り組みの意図〉

熊本は都市化されている部分もありますが、東京とかの大都会に比べれば、自分の頑張りしだいでは街に何らかの変化をもたらすことができる、つまり“まちづくりのハードルが低い”と思います。ちょっとした変化を加えるだけで大きく成長できる可能性に満ちていて、思い描くことを実現できる可能性が少しでもあるからこそ、情熱的に取り組むことができます。

〈今後の展望〉

これからも継続的に開催して、地域に根づいたイベントになっていけばと思っています。まちづくりに興味がある人、コミュニティづくりに貢献したい人が参加してくれるとうれしいです。

白川夜市は月一回の開催ですが、他の日には、野宿／キャンプ、バーベキュー、朝市、キッチンカーなど、河川敷を利用した新たなイベントを企画して、白川の水辺をもっと盛り上げていきたいですね。



白川夜市運営 Shirakawa Banks
代表 ジェイソン・モーガン さん

◆まちづくり地域優良事例集◆ 中央区まちづくりセンター

近未来キャラバン



〈取り組みの内容〉

小学3年生～6年生が対象の体験型ワークショップで、“企画力”・“ものづくりを通じた地域とのつながり”をコンセプトに、校区のホームページ（HP）公開までのプロセスを体験するものです。夏休み期間に実施します。地元在住・Web業界の講師のサポートのもと、子どもたちが自分で取材・撮影・HP制作・地域へのプレゼンまで行います。「地元企業のお仕事」についての取材を通じ、普段ふれることのできない地元企業の取り組みを学び、魅力を発見するとともに広く発信。制作したHPは、地域の方々に引き継いで活用されています。

〈取り組みで工夫にしていること〉

取材にあたってはビジネスマナーを伝授したり、最終日には、ダイジェストムービーを披露し、子どもたちの成長を感じていただくひとコマもあります。作成したHPは、地域の方々に運用していただけるよう、操作や管理の方法などを丁寧にレクチャーしています。



〈取り組みを始めようと思った経緯・きっかけ〉

子どもたちがデジタル関係・Webの仕事に親しむ機会として、2016年に「デジタルハリウッドSTUDIO 熊本」（熊本市）が

「学校法人 未来創造学園」（熊本市）と協力して水俣市で実施した事業がきっかけです。2017年からは、中央区まちづくりセンターが“校区の魅力発見発信事業”として「近未来キャラバン」を実施することになりました。

〈まちづくりとのかかわり〉

子どもたちが取材を通じて、地域とのかかわりを持つことで、地域への愛着形成につながっています。これまで近未来キャラバンを実施した校区では、子どもたちが制作したHPが現在も活用されています。また、地域の方々がHPで自治会活動のPRを行ったり、同様の取り組みを主催したりするなど、すそ野が大きく広がりを見せています。

〈事業の原動力〉

近未来キャラバンを通して見える、「子どもたちの成長」です。最終日のプレゼンで輝く子どもたちの姿を見ると「来年もがんばろう！」と新たな気持ちになります。

“Webの仕事”はデザインや写真、取材など多岐にわたり、それぞれに奥深さがあることを、子どもたちに感じてもらえたらうれしく思います。



中央区まちづくりセンターの職員、デジタルハリウッドSTUDIO 熊本の受講生、卒業生、プロのライターやカメラマンなどがサポート。

◆まちづくり地域優良事例集◆

託麻まちづくりセンター

小山山の里山整備事業



〈取り組みの内容〉

山を囲む5つの自治会メンバーが参加しているグループです。里山協議会のメンバーで、小山山（東区の小山2カ所と平山町3カ所）の草刈り作業を行っています。下草刈りは基本的には5月・6月・7月・9月の年4回ですが、その他にも、伐採した竹で展望台やオブジェを制作したり、里山についてのクイズゲームを行ったり、子どもたちと料理を作ったり、花の苗を植えたりする啓発イベントを開催しています。

〈取り組みで起きた変化〉

整備する前は、登山者も1日あたりごくわずかでしたが、整備を始めて、遊歩道ができると20人くらいに増えたんです。小山山には、地藏さんや観音さんをお祀りするほこらが数十カ所あるんですが、それを管理されている方が、よりいっそう管理に力を入れるようになりましたね。

一番嬉しいのは、それまでは散歩だけだった人が声をかけられたり、活動に参加してくれたり、自ら花を植えたりして、企業や小学校・保育園などが団体でも参加してくれるようになり、里山づくりの輪が広がっていることです。



〈取り組みを始めようと思った経緯・きっかけ〉

竹が小山山の半分位を覆いつくすほどに成長して荒れ山になってしまっていたので、昔の「里山」の風景を取り戻し、子どもたちに自然の中で遊ぶ喜びを伝えたい！と強く思ったのがきっかけです。竹が道路のすぐ脇まで迫っていて、車道は狭くなり、交通安全にも影響するほどでした。周りの雰囲気も暗くなってしまうし、ゴミの不法投棄などが相次いでいたので、防犯上の観点からもこの活動を始めました。



小山山里山づくり協議会
会計 津田 弘徳 さん

〈今後の展望〉

メンバーの想いは“これまで長く暮らしてきた町に、少しでも恩返しがしたい！”というもの。別に見返りを求めているわけではないので続けられていると思います。身体を動かすので健康づくりにもいいし、きれいになっていく里山をつぶさに見られるので達成感もあります。メンバーの平均年齢は70歳くらいなので、年に数回の集まりが、安否確認や情報交換の場となっています。

今後は、里山らしい面積を拡げ、小山山、里山遊歩回廊やキャンプ場、マウンテンバイクの走行ができるスペースを設けたりして、自然に興味を持つきっかけづくりもしていきたいです。

横井小楠顕彰会



〈取り組みの内容〉

江戸時代末期から明治維新にかけて活躍し、日本の進むべき道を示した偉大な思想家の1人でもある「横井小楠」の良さをもっと沢山の方々に知ってもらいたいという目的で、顕彰会の活動を行っています。主な活動として、毎年、横井小楠の命日である2月15日に、横井小楠の偉業・功績を顕彰するために、遺髪が眠る東区沼山津の小楠公園にある墓前で「横井小楠墓前祭」を開催。横井小楠顕彰会会員をはじめ、地域の方々、秋津小・桜木小・桜木東小の児童らが参列し、遺徳を偲びます。また、2019年度には秋津小の総合の時間に読み札を考えてもらい、「かるた」を作成しました。今年の墓前祭の日には、横井小楠を訪ねて吉田松陰や坂本龍馬もやって来たという横井小楠の旧居「四時軒」が、熊本地震後の復旧工事を終え、再び開館しました。

〈取り組みの仲間集め〉

会長だけでなく、会員全員が横井小楠に関心のある方ばかりです。顕彰会の活動では「楽しく、楽に、小楠先生の遺徳を偲び顕彰する」をスローガンに進めています。中には「会員ではなかったけれども顕彰会に入りたい」という方もいらっしゃいました。そうやってメンバーが集い、楽しく笑い合いながら活動を行っています。また、顕彰会が続けられているのも、秋津まちづくりセンター・公民館、各校区の自治会、秋津校区自治協議会を中心とした地域の方々のサポートがあるからこそだと思います。



横井小楠墓前祭の様子

〈取り組みを始めようと思ったきっかけ〉

横井小楠は京都で他界後、遺骸は京都南禅寺天授庵に、遺髪は沼山津の小楠公園に埋葬されました。そして1918年（大正7年）以降、旧秋津村（今の秋津校区を中心とし、桜木・桜木東・若葉各校区の一部を含む地域）の教育界や横井小楠とも縁のある彌富家を中心として顕彰会を組織し、命日である2月15日（旧暦では1月5日）に「横井小楠墓前祭」が毎年実施され、今に至っています。

〈取り組みの意図〉

私（光岡氏）は今年度から会長に就任し、以前は副会長もしていました。横井小楠は、波乱に満ちた生涯を送り、最後には暗殺されてしまいましたが、その様々な業績は、現代にも役立つ貴重な資料になると思います。そんな地元の偉人・横井小楠に親しみをもちてもらうために、様々な活動を行っています。また、役員会をほぼ毎月行っていますが、誰かに押し付けるのではなく、それぞれに役割があり、その役割と個々の発想を大事にしています。今後も楽しみながら活動していきたいです。



横井小楠顕彰会
会長 光岡 和隆 さん

〈今後の展望〉

今年は墓前祭の夜、四時軒を舞台に、講演、若手ミュージシャンによるジャズ演奏や、行政とのタイアップでライトアップも行いましたが、今後の活動でも今回のように行政との連携を行っていきたいです。また、秋には地域の皆様と一緒に取り組む活動を考案中であり、新たな活動を増やしていけたらと思っています。さらに今後はホームページを作るなど広報にも力を入れたいと考えています。

◆まちづくり地域優良事例集◆

東部まちづくりセンター

鳥井原公園 四ッ角マーケット

〈取り組みの内容〉

東区錦ヶ丘・尾ノ上校区第二町内の鳥井原公園を会場に、2カ月に1度、飲食や雑貨販売などを行うマルシェと参加者の交流企画を合わせたイベントを開催しています。2010年からスタートし“人と人とのつながり”を拡げる、地域住民の交流の場となっています。

〈取り組みで工夫にしていること〉

来場者と、私たち主催者（スタッフ）とを分け隔てないよう心がけています。もちろん、運営上の業務というものもありますが、主催者（実行委員会・自治会）、出店者、来場者関係なく交流できる場を目指しています。

集う人たちみんなで「四ッ角マーケット」という場を共有することで、人とのつながりが広がっています。このつながりによって、災害などいざという時の「共助」がしやすくなったり、校区で困ったことがあったらみんなで協力して解決できたりとか、ただ楽しいだけではなく、地域の支え合いを強化する役割もあると考えています。



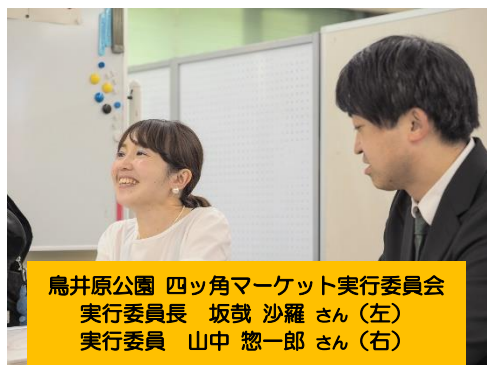
〈今後の目標・課題〉

四ッ角マーケットは2カ月に1度、偶数月の第3土曜の定期開催ですが、まだまだ限られた人にしか認知されていないのが課題です。

校区である尾ノ上小学校と隣の健軍小学校、未就学児とその保護者向けに近隣の幼稚園・保育園等を中心に紙媒体のチラシを配布していますが、最近では費用をなるべくかけず効果的に告知ができるよう、SNSも活用しています。

とくに若い世代に四ッ角マーケットのことを知ってもらって、地域に目を向けてほしいですね。まだまだコミュニティに加わっていない住民の方々もいらっしゃるので、真の地域コミュニティの確立へ向けて、今後も取組を継続していかなければならないと考えています。

まずは、少しでも意識して自分たちが住む地域に目を向けてもらえればと思います。現代は多様な価値観を認める社会ですが、災害時など、地域社会が果たす役割はまだまだ大きいことも確かです。地域側である自治会や自治体も、若い世代にどうアプローチすれば関心を寄せてくれるか分からず苦心しています。若い方々の感覚や考えをフィードバックできれば、地域コミュニティの可能性もまだまだ拡がることと思います。



鳥井原公園 四ッ角マーケット実行委員会
実行委員長 坂哉 沙羅 さん（左）
実行委員 山中 惣一郎 さん（右）

◆まちづくり地域優良事例集◆

西部まちづくりセンター

あじうのいけ

味生池周辺エリア振興協議会



〈取り組みの内容〉

西区池上校区では以前から鳥獣被害に悩まされてきました。そのため ICT を活用した地域課題解決について研究する熊本学園大学の境章ゼミと池上校区の住民が協力し特産品の開発に取り掛かりました。

まずは、池上校区の地形・史跡等を知るために、まち歩きを実施し、次に平（たいら）地区を知るために地域住民の方にヒアリングを実施しました。

ヒアリングを重ねた結果、鳥獣被害では特にイノシシの被害が深刻な事が話題にあがり、「イノシシ肉を取っても食べるもんがおらん」という言葉がきっかけで、学生から焼肉のタレを開発しようと提案があり協議会のメンバーで搾汁した池上校区特産のネーブルの果汁を使った焼肉のタレを開発することになりました。

〈取り組みの仲間集め〉

味生池周辺エリア振興協議会は熊本学園大学の境章ゼミと池上校区との間を西部まちづくりセンターが取り持ち、3 者が協力して立ち上がりました。

その他では材料であるネーブルを農家さんから提供して頂けることになり農家さんを巻き込んでいきました。



〈取り組みを始めようと思ったきっかけ〉

2019 年に池上校区の住民と熊本学園大学でワークショップを実施し「池辺寺跡」をPRする事により、高齢化・過疎化の進む平

地区を活性化することが当初の目的でしたが、次第に池上校区全体を巻き込んだ地域の魅力を発掘、発信をする事業に成長しました。



代表 熊本学園大学
名誉教授 境 章 さん

〈取り組みの意図〉

駆除されたイノシシ肉を美味しく食べられる焼肉のタレを開発しました。材料には農家さんから提供していただいた廃棄されるネーブルを使用し、西区らしい逸品が誕生しました

「味生池（あじうのいけ） 龍伝説のたれ」は池上校区の池辺寺跡が、そのほとりにあった溜池「味生池」に住む龍を鎮めるために建立されたという伝説にちなんで商品名をつけました。

〈今後の展望〉

現在ネーブルを使用した、スパイス、ドレッシング、芳香剤を開発中です。商品のバリエーションを増やし、西区フェスタなどで販売したいと考えています。

「味生池（あじうのいけ） 龍伝説のたれ」 1 本 500 円

◆まちづくり地域優良事例集◆

河内まちづくりセンター

河内町せせらぎ会



河内小学校のプールに EM を巻いている様子

〈取り組みの内容〉

河内町（河内校区・芳野校区）で、EM（有用微生物）を活用し、環境浄化のための活動を行っています。変わりゆく社会情勢のなかで、生活環境が変わり、生活排水の影響による水路の水質悪化や臭いが問題となってきたことを背景に、平成6年から本格的に環境問題に取り組んできました。EMを使った取り組みは、スタート当時は18リットルのタンクを持って各支部長がそれぞれの担当地区を回るという過酷な作業だったそうです。今では、各家庭でそれぞれ用途は違うものの、EMを使用することが浸透し、確実に環境が良くなっています。

〈取り組みの仲間集め〉

河内町は何世代にもわたってその地に住む人が多く、とにかく人がいいと代表の中川さん。新しい取り組みを始めようとしたら、みんなが協力する気質・雰囲気があると思っています。「頼まれたら、せなнтаい」の精神が培われているので、みんな積極的に助けてくれますよ。



河内町せせらぎ会のメンバー

〈取り組みを始めようと思った経緯・きっかけ〉

水路の臭いが地域の課題でしたが、ある講習会でEMの活用を聴く機会があって実際に試してみたところ、本当に臭いがなくなったことで、間違いなかったのがきっかけですね。地域の皆さんが協力してくれてみんなで一緒に使ってみて結果が出る。濁ってしまっていた川底が見えるようになったときは嬉しかったですね。



薄めた EM

〈取り組みの意図〉

EMは素晴らしいものですが、環境浄化に住民の意識を向けるひとつの道具だと思います。住民が一体となり環境浄化に取り組むことで、昔の川や海を取り戻すことができました。その結果、ホタルの生育にも着手し「ホタルの会」も設立しました。紙芝居やEMだんごづくり、ホタル鑑賞会など子ども達を巻き込むことで、町全体で未来を創っていくことが何よりも大事なことでと思っています。

〈今後の展望〉

次世代の育成が一番の課題ですね。だからこそ、まちづくりセンターとうまく連携をとって活動の一部を移管しています。この歩みがずっと続く仕組みづくりをみんなで考えていきたいですね。

◆まちづくり地域優良事例集◆

花園まちづくりセンター

池田ふれあいランチ事業

〈取り組みの内容〉

地域で一人暮らしをしている高齢者を対象に、見守りや安否確認、健康管理などのため、毎月2回、手作りのお弁当を宅配するものです。1食は400円で、献立作り、調理、配達までを地域のボランティアが行っており、毎回約200食をお届けしています。

〈取り組みで工夫にしていること〉

「できる人が できるところで できることを無理なく」をモットーに、登録したボランティアの、その時来られる方が来て活動する、というスタイルで運営しています。あえて役職は設けず、ゆるやかにできるからこそ、30年も続いてきたと思います。献立は毎月第1金曜日に考え、第2・第4金曜日に配食。配食の日はだいたい30人くらいの方が集まって調理をし、配達をしてくれる人も入れると、全部で60人くらい関わっています。調理は朝9時から、配達は午後3時半くらいからです。

〈取り組みを始めようと思った経緯・きっかけ〉

平成元年に「高齢化社会を迎えるにあたり、見守りの一番良い方法は配食なのでは」という話が出ました。お弁当屋さんと契約する案もありましたが、自分たちでやってみよう、とアンケートを取ったところ、ニーズと協力者のバランスがちょうど釣り合っていたので、1年半の準備期間を経てスタートしました。初めは花園市民センター（現・花園まちづくりセンター）で調理等を行っていましたが、平成14年からは、池田地域コミュニティセンターに拠点を移して活動しています。



〈活動の原動力〉

この活動は、単なる配食ではなく「安否確認」という重要な役割を担っています。なので、応答がないからといって玄関先に置くのではなく、必ず対面で手渡しする、ということを大切にしています。実際に、ご自宅で具合が悪くなられていた方を配食のスタッフが発見したことで、大事に至らずに済んだということもありました。“地域の見守り”という使命感もあります。

〈今後の課題〉

若い世代の方で活動に携わりたいという方がいたら、ぜひ一緒にやっていきたいです。道具も準備していますし、調理とか、配食とかの方法をひとつずつお伝えしていきます。活動のカタチは変化していくかもしれないけれど、大切なことは守りながら、この事業が続いてほしいと思っています。



池田校区地域福祉委員会
委員長 丸山 和子 さん

池田校区社会福祉協議会
会長 吉村 次郎 さん

◆まちづくり地域優良事例集◆

富合まちづくりセンター

想いをつなぐイルミネーション



〈取り組みの内容〉

富合商工会青年部では、これからの富合を担っていく子どもたちに地域の思い出を作ってほしいと、2021 年から、南区役所前のシンボルツリーを使ったイルミネーションを企画・運営しています。

イルミネーションの点灯式では、地域みなさんが「富合の子どもたちのために」と、手作りされた 300 個のプレゼントの配布。「たから子ども園」による和太鼓、富合中吹奏楽部による演奏のほか、キッチンカーや長洲町より提供いただいた冬の金魚すくいなど、子どもたちが活躍し、楽しんでもらえるようなコンテンツを準備しました。たくさんの家族連れにお越しいただき、にぎやかなひとときとなりました。

〈取り組みの仲間集め〉

イベントの企画・運営は青年部が担い、地域からの手作りプレゼントのとりまとめは富合まちづくりセンターに協力いただきました。まちセンの呼びかけにより、子育て支援ネットワーク・ささえりあ富合・老人福祉センター・コミセン・にしくまもと病院リハビリ施設れんげ草ほか、多くの事業所や個人みなさまから手作りプレゼントが届きました。



〈取り組みを始めようと思ったきっかけ〉

私が子どものころは夏祭りがあり、小さいうちは手を引かれて屋台を回った家族との思い出、中学に上がると地域の仲間たちとの思い出として今でも強く心に残っています。現在富合の人口は増えてきていますが、昔のように「地元」を意識することが少なくなった気がします。自分たちの記憶に残り続けている「地域の思い出」を子どもたちにも作ってほしいと、コロナ禍でも楽しめるイベントとしてイルミネーションを企画しました。



富合商工会青年部
代表 内藤 直 さん

〈取り組みによる効果〉

点灯式当日、子どもたちにプレゼントを配ると、とても喜んでくれました。また、イベント後のアンケートでは、「前年にももらったプレゼントを今でも大切に飾っています」とのうれしい回答があったり、作成に協力いただいた事業所からは「作る側もやりがいや喜びがあります」との声もいただいたりしています。このイルミネーションをきっかけとして、地域内に良い循環が生まれていると感じています。

〈今後の展望〉

「想いをつなぐイルミネーション」というタイトルのとおり、後世に続いていくイベントになってほしいです。過去富合町には、なくなってしまったイベントがあります。一度、なくなってしまうと復活が難しいので、誰がリーダーになってもこのイベントが回っていくような仕組みづくりを考えています。

今後は、青年部が富合のまちづくりの原動力となっており、ほかの団体も巻き込んでいけると、ますます面白くなるのではないかと考えています。たとえば、イベントの場を使って、富合で生産された農産物を販売したり、富合の事業所による福祉相談ブースを設けたり…地域の資源を生かした、顔と顔が見える場づくりができれば面白そうだなと思っています。

◆まちづくり地域優良事例集◆

飽田まちづくりセンター

ながなすコンサート

〈取り組みの内容〉

「ながなすコンサート」は飽田奏楽ネットワーク(代表：横溝氏)主催で実施する、出演者も裏方を担う手作りのコンサートです。音楽を通じて参加者の交流を深めるとともに、飽田地域の文化や人材を再発見することを目的に、今年度で22回目の開催となりました。(コロナ禍の影響で2年間中止したものの、令和4年度は3年ぶりの開催となりました。)

当イベントは飽田公民館のホールにて行われ、小学生からお年寄りまで例年多数の演者が参加しています。また、参加するグループには、必ず1人は飽田地域の住民や、飽田に関係のある方が入っています。観客の方は耳馴染みのある曲が流れると、ロずさんだり、手拍子をしたりと、会場が一体となって盛り上がる様子が見られます。過去にはロビーで公民館講座の受講生や地域の方々による作品展示、野菜などを販売する「母ちゃん市場」も行ってきました。

〈取り組みの仲間集め〉

ステージに立つ演者は、当日の演奏だけでなく事前の会議や当日の裏方まで全員で役割を分担し、コンサートを作り上げています。また飽田まちづくりセンター(飽田公民館)の方にも企画運営をサポートしていただき、皆が関わることで愛着や責任感が湧き、「自分たちのコンサート」という意識につながっていると思います。一部の人だけが頑張るのではなく、ゆるい感じで多くの人が関わるのが大事だと考えています。

〈取り組みを始めようと思ったきっかけ〉

始まりは、飽田公民館で行われている各種講座の発表の場づくりでした。地域の住民が有志で「飽田奏楽ネットワーク」を結成し、飽田まちづくりセンター(飽田公民館)のサポートを受けながらコンサートの企画・運営を行い、現在に至ります。



〈取り組みの意図〉

今年度で22回開催した「ながなすコンサート」ですが、始めた頃は2〜3回続けばいいかなと軽い気持ちでした。それが今では地域になくってはならない行事になっています。

飽田地域の小中学校の児童生徒たちが当日の運営に携わったり、バンドに参加したりすることもありました。コンサートを通して、世代間交流ができる場にもなると思います。出演者と観客が一体となった地域のチカラで盛り上げて、地域を活性化したいと考えています。私(横溝氏)も第3回目の開催から参加し、毎回出演しています。

〈今後の展望〉

多い時は400名程来られていましたが、コロナ禍で2年中止。今年度は開催できましたが、プログラムをコンパクトに縮小して行いました。今後は、以前に負けないうくらい交流を増やしていきたいです。また、周囲の子ども達にも企画運営に参加してもらい、一緒に「ものづくり」をすることで、世代間交流も広げられたらと考えています。

◆まちづくり地域優良事例集◆

天明まちづくりセンター

加勢川開発研究会

〈取り組みの内容〉

加勢川開発研究会は昭和 30 年後頃から廃れてしまっていた肥後細川流投網を復活させるべく平成元年に発足。中無田地区では、8 月の八朔の時期に田んぼの神様にボラをお供えする風習がありました。8 月第 4 日曜日には、メンバーが集まり四艘の船で「合わせ打ち」と呼ばれる漁法で魚を捕獲し地区の住民へ提供します。その他の活動内容は小中学校での環境学習、肥後細川流投網の伝承、川遊び体験や河川の清掃活動等を定期的に行っています。

〈取り組みの仲間集め〉

活動の中心となる中無田閘門では、小中学校の環境学習やプレイパークイベント「来て見て遊ばんネ」など様々な PR 活動を行っています。毎月 1 回の肥後細川流投網の練習会では、子ども達が加勢川開発研究会に興味を持ってもらう貴重な機会となっています。

〈取り組みを始めようと思ったきっかけ〉

加勢川、緑川が身近にあった中無田地区。おのずと子どもの頃の遊び場は川でした。近年子ども達が川で遊ばなくなり、川が寂しくなってきたと感じた前会長の井村紘さんが川を活かしたまちづくりがしたいと平成元年からスタートした加勢川開発研究会。現在は会長の田中洋丞さんが子ども達に川の楽しさや怖さを教えています。



加勢川開発研究会
会長 田中洋丞 さん

〈取り組みの意図〉

「子どもに夢を」、「お年寄りにはいきがいを」、「会員にはやりがいを」をモットーに活動しています。子ども達にはお年寄りや先輩が川遊びの面白さ、自然環境の大切さを教え、熊本特有の恵まれた水資源・水環境の大切さを身をもって知るきっかけにもなり、将来にわたって水環境・自然環境の保全に努めてくれると期待しています。

〈今後の展望〉

川に関心を持つ人が増えて欲しいと田中会長。川遊びの楽しさだけではなく、水害や事故などの危険性もわかってもらいたいとの事でした。これからも肥後細川流投網の伝承、後継者の育成や川に親しむ活動を続けていきたいです

◆まちづくり地域優良事例集◆

幸田まちづくりセンター

まちづくりサロン in 幸田



〈取り組みの意図〉

まちづくりサロンは、令和4年度から始まった取り組みで、まちづくり活動に興味のある方々が気軽に集まり、お互いのことを知ることができる対話の場になります。幸田地区をよりよい地域にしたいと思う皆様が交流し、学び合いながら、参加者同士のつながりを作っていただき、楽しく集える場を作っています。

〈取り組み内容について〉

最初は、まちづくりセンターで作成した人口の増減や高齢化率、空き家数、地域行事・資源などをデータ化した「校区カルテ」を活用し、地域を深掘りすることや参加者のこれまでの経験を「対話」により共有することから始まりました。

学びの場としての勉強会では、熊本市現代美術館の日比野館長（東京藝術大学学長）をゲストに迎え、「まちづくり×アートをテーマ」に学びを深めました。

その他、グラフィックファシリテーションやクロスロードゲームの体験会も開かれました。



〈参加した代表者の声〉

地域の中には企業や自治会、PTAそれぞれの校区を良くしていこうと活動されている団体が多くあります。それらのグループが団結して、新たな視点を得ることができ、横展開も可能になるのではと、今年度から始まったサロンに参加しました。現在活動している団体においても校区の垣根を越えて、精力的に子ども達や地域のために活動している多くの方がいます。今後、PTAやおやじの会などで活躍後、卒業した方々にも、まちづくりサロンに参加してもらうことで新たなつながりが生まれ、幸田地区のイベントとして何かできるのではないかと、参加者の仲間と楽しくなるようなイベントを考案しています。



参加者代表 緒方 謙次 さん

〈今後の展望〉

令和5年度からは地区の魅力的な資源である「おおきな公園」を舞台に、おとな・子ども、みんなが楽しめる空間を創造する「スタートイベント」の開催が予定されています。

まだ出来立てのグループですので、柔軟性を生かしながら、何事にもチャレンジ。地域×企業×行政で協力し、新たな出会いとつながりを大切に、楽しく自由なまちづくりに取り組みます。

◆まちづくり地域優良事例集◆

城南まちづくりセンター

TEAM 城南ワンダホー



〈取り組みの内容〉

城南の住民が集い、ブランド力向上のために、城南まちづくりセンターと共同で各種イベントや商品開発等を実施しています。“仲間づくり”“城南町の情報発信”“人づくり・まちづくり・ものづくり”という三本の柱があり、城南町に人を呼び込んで、城南のことをたくさん知ってもらいたい、そして、城南の情報を発信する仲間になってもらいたいというもので、そのために様々な官民連携の取り組みを進めています。

〈取り組みを始めようと思った経緯・きっかけ〉

2010年に城南町が熊本市と合併することになったのがきっかけです。城南町のことをもっと皆さんに知ってもらって、来てもらえるようなことをしないと、“城南町”という個性が目立たなくなるんじゃないか、という思いから集まりました。イベントの時には毎回アンケートを取るんですが、皆さんがすごく“城南町”を認めてくださって「参加してよかった〜」「城南町のいい所をもっとみんなに知ってほしい」って言うてくださいます。そういう声がやりがいにもつながるし、次のイベントのヒントにもなります。



〈取り組みで工夫にしていること〉

古くから住んでいる方、新しく移り住んでこられた方を分け隔てせずに、みんなが仲間として一緒に城南町のことを考えていけたらいいと思います。まちづくりに対して、いろんな方の意見を聞いて企画に活かすというのが、一番気をつけているところです。「外からの目線」を大事にしています。TEAMの仲間にも新しく移り住んで来た方もいて、私たちが全然気づかない魅力を教えてもらうことが多いです。町の魅力を編集して発信して、それをみんなが共有して……そしてまたそれを広げていく。最終的には「城南町って住みやすいね」って言われるようになって、人口を増やしたいという思いもあります。

〈これまでの歩みとこれから〉

私たちのまちづくり活動は、少しずつ扉を開けてみて「あっ、これはいけるかな」という感じで一歩ずつ進んできたんです。いろんな企画とか商品開発とか、まずはちょっと集まって意見を出し合ってみようか、という感じで、それがだんだん広がってきたような。

イベントにしても、自分たちが今までに交流のあった方に声をかけながら、少しずつ企画を大きくしていったような気がするんです。なので、今やっているこの取り組みが、いきなりバーっと、すごいことになる、っていうことはあんまり考えていません。地道に、今やっていることを、ブレずにやっていきたいなと思います。



TEAM 城南ワンダホー
代表 岩村 匡 さん

◆まちづくり地域優良事例集◆

南部まちづくりセンター

川尻お寺 de フェスタ



〈取り組みの内容〉

毎年3月の第2日曜日に開催しているイベントで、川尻に点在するお寺を巡りながら、それぞれの境内でワークショップや出店、ステージイベントを楽しむ内容。2021年・2022年は“スピンオフ企画”として、お寺の本堂等のライトアップも。ライトアップにあわせて、クラフトビールやスパイスカレーの出店も行いました。

〈取り組みで工夫にしていること〉

川尻のお寺にはいろんな宗派があって、宗派それぞれの考え方があるので、宗教色を前面に出し過ぎないこと、各々の宗教観をリスペクトし合うこと、に気を付けました。宗派を越えて、連携してイベントをやるのは珍しいんじゃないかなと思います。

それから、校区の人たちと一緒にやるということも大切にしています。町あつての寺、町あつてのイベントですから、常に自治会や商店街とコミュニケーションをとるようにしています。



〈取り組みを始めようと思った経緯・きっかけ〉

川尻では、1月から3月にかけて「かわしり春ものがたり」というイベントを実施していますが、2015年に、その一環で「お寺を使って何かできませんか？」というオファーをいただいたことがきっかけです。西区の本妙寺では「寺フェス」というものが行われていて、同じような取組みを川尻でもできないかと思って。

“お寺”って、法事でもない限り行かないイメージが強いんですよね。少し遠い存在というか。そんなイメージを変えたい！ ということで、この活動を始めることにしました。川尻校区には17のお寺があって、宗派もいろいろですが“町あつての寺”という想いをひとつに、宗派の垣根を越え、仲間を集めてスタートしました。町に恩返しをしたいというのはもちろんですが、川尻に住む人を増やしたいという想いもありました。



川尻お寺 de フェスタ実行委員会
代表 金井 俊行 さん

〈今後の目標・課題〉

他の取組みとも協同して、ゆくゆくは“南区フェスタ”にしたいですね。観光客が増えれば経済効果が生まれる。京都は神社やお寺が主な観光地だし、東京でも浅草寺は一大観光地となっています。お寺には、それだけ魅力があるということです。校区にある多くのお寺を生かさない手はないと思います。また、川尻を含む南区の様々な魅力を存分に発信できるようなものにしていきたいです。

◆まちづくり地域優良事例集◆

植木まちづくりセンター

植木寺子屋事業

〈取り組みの内容〉

学校の放課後を利用し、地元の人が講師となって児童にいろいろなことを教えています。習字や英語、地域の歴史といった内容に始まり、野菜の生産者の話を聞いたり、野菜を育てて販売したりしています。

〈取り組みで工夫にしていること〉

運営メンバーは退職した人や、子どもが巣立った後の方が多いです。ボランティアなので、本人に余裕があることが大切です。それから、やっぱり自分が楽しいことが一番。私はもう植木に70年住んでいますが、小学1年生から顎で使われていますよ（笑）。

それぞれのグループに全ての学年を入れるようにして、上の学年の子が、下の学年の子に教えるような雰囲気を大切にしています。

〈取り組みを始めようと思った経緯・きっかけ〉

元々は「山本塾」という取組みから始まりました。毎週月曜日の午後4時から5時くらいまで、学校の放課後を利用し、地元の人が講師となって児童にいろいろなことを教えるものでした。最初は習字や英語、地域の歴史といった内容に始まり、野菜の生産者の話を聞いたり、野菜を育ててそれを販売したりしています。農家さんが子どもたちにいろんなことを教えてくれました。野菜の販売では、子どもたちの野菜の絵を貼り、生産者の顔として子どもたちの写真を載せました。

そのほかにも、鬼ごっこをしたり、おもちゃとかものづくりをしたり、夏の暑い日に名水百選のところに行って、水深の浅いところにマスを入れて捕まえて、それを焼いて食べたり、お寺のお坊さんとの交流もしました。



山本校区自治協議会
植木地域校区 自治協議会連合会
会長 境 俊次 さん

〈今後の課題〉

運営資金について、いただくのは入会金の800円だけなので、野菜を販売したり、夏祭りの出店でかき氷や手作りのおもちゃを売ったり、学校のバザーにおいて竹で作ったプランターを売ったりして少し稼いでいます。資金集めは難しいですね。

〈今後の展望〉

「塾」と名前に入っているの、ある程度は勉強的なことも取り入れたいと思ってはいます。廃線跡の「ゆうかファミリーロード」を歩きながら、昔はどうだったとか、教えたいですね。

市との合併前の植木町の時は「小町祭り」というものをやっていましたが、それをまたやろうかなとも考えています。子どもたちから俳句を募集したり、ホテルの鑑賞をしたり。

◆まちづくり地域優良事例集◆

北部まちづくりセンター

彼岸花ロードハイキング



〈取り組み内容について〉

身近な自然に触れながら歩くことで、地域の魅力を再発見したり、健康増進を図るウォーキングイベントで、毎年秋分の日に開催。北部まちづくりセンターをスタートし、彼岸花の咲き誇る坪井川沿いへ。途中、子どもたちは小清水の池でカヌー体験・いかだ体験ができた、明徳体育館で健康運動指導士による体操やレクリエーションも行われ、幅広い年代の方が交流や繋がりを深めています。

また、彼岸花をより美しく見せるために、環境保全の一環として毎年9月の第1土曜日に各町内の方々が集まり、草刈りも行っています。

〈取り組みのきっかけと仲間集め〉

そもそも平成14年頃（約20年程前）から、健康まちづくり委員会が「彼岸花ロードウォーク」を、青少年健全育成協議会が「秋のハイキング」を主催して行っていました。そんな中、校区子育てネットワークから『どちらのイベントも似た内容なので、合体させてみたらどうですか？』という提案があり、平成20年に合体して「彼岸花ロードハイキング」として行われるようになりました。当イベントは、現在では「川上校区まちづくり委員会」「青少年健全育成協議会」「校区子育てネットワーク」が協力しあいながら行っています。



〈取り組みの意図〉

当イベントをきっかけに、歩くことを習慣にして気軽に健康づくりに取り組んでいただけたらと思っています。また、「彼岸花ロードハイキング」は幼児から80歳近くの高齢者まで参加いただき、コロナ禍前は、計280名程参加されたこともありました。幅広い年代層が参加するので、校区住民の世代間交流をもっと深めていけたらと思っています。

また川上校区では、歩くことを習慣にして、気軽に健康づくりに取り組めるように「わくわくウォーク川上」というイベントを開催するなど、「歩く」をテーマに取り組んでいます。



川上校区まちづくり委員会
会長 久保 正章さん

〈今後の展望〉

コロナ禍で、以前まで行っていたカヌー体験やレクリエーションなどを中止していました。来年度以降はそれらも再開し、さらに、ハイキングコースの中で子どもたちにも楽しんでもらえるようなニュースポーツ・クイズ大会なども企画しています。継続して参加したくなるようなアイデアを、地域の皆さんにもいただきながら、企画を考えていきたいです。

◆まちづくり地域優良事例集◆

清水まちづくりセンター

鯉のぼり集中展張



〈取り組みの内容〉

城北3町内自治会の初夏行事「鯉のぼり集中展張」は、4月中旬～5月中旬の1ヵ月間、水の科学館西側の坪井川河川敷で行われます。展張り作業には城北3町内自治会（八景水谷町内会）の役員など約20名が参加。長さ8メートルほどの支柱となる青竹3本を運び込み、それを建ててロープを渡し、住民から寄せられた最大50個の鯉のぼりが舞い上がります。14回目でコロナ禍の中で開催となった「鯉のぼり集中展張」は、支柱の先に疫病退散の願いを込め、青々とした杉の枝が取り付けられました。展張り後は風の影響で鯉のぼりが絡まったりすることもあるので、期間中は毎日確認しています。

〈取り組みの仲間集め〉

町内会の役員だけで作り上げるのではなく、前会長を含めた旧役員や行政の方など、約20名で協力して行っています。それぞれが地域の方々に喜んでもらいたいという強い気持ちがあり、その気持ちをひとつにして、実施しています。



〈取り組みを始めようと思ったきっかけ〉

前会長指示のもと、町内会の活動をもっと知って欲しい、活性化したいという思いと、使用せずに眠ったままの鯉のぼりをもう一度蘇らせたいという思いで企画。平成21年度に鯉のぼりを譲っていただける家庭はないか呼び掛けを行い、翌年にスタートしました。（真嶋さんは今年度から会長になりましたが、町内会には会計・体育部長・少年部長と10年以上携わっておられます。）

〈取り組みの意図〉

この取り組みを通して、年代問わず地域の方々に喜んでいただき、会話・交流のきっかけにしたいと思います。

鯉のぼりを提供された方が見に来られて自身の鯉のぼりを見つけたり、自宅の敷地内に飾れなかった方も飾る機会ができたりと、喜びの声をいただきました。近くの機能病院からも見えるので、入院中の方にも喜んでいただけたらと思っています。

また、地域の方々だけでなく地域外の方からも鯉のぼりを提供いただいたり、高校生が登下校で通ることも多いので、取り組みを知っている方が増えてきて、とても嬉しく思います。



城北3町内自治会
会長 真嶋 弘治 さん

〈今後の展望〉

鯉のぼりが随分古くなってきました。毎年町内の方に向け使わなくなった鯉のぼりを募集していますが、今後さらに継続していくためにも、町外にも募集を行っていかれたらと思っています。

使わなくなった鯉のぼりがありましたら、城北3町内自治会長の真嶋までご連絡ください。

（電話番号：090-7161-7640）

◆まちづくり地域優良事例集◆

龍田まちづくりセンター

龍田プレイパーク

〈取り組みの内容〉

地域の宝である子どもたちを真ん中に、地域・学校・PTA と連携し「世代をつなぐまちづくり」に取り組んでいます。龍田中学校と龍田小学校の隣接地を、子ども達の冒険遊び場「龍田プレイパーク」として整備。2004 年からは、毎年「身近な森の音楽会」を開催しています。

〈取り組みで工夫にしていること〉

自然と挨拶が交わせ、安心して暮らせるまちに子どもたちが自然の中で、自由な発想で遊び、その中から生きる力を学ぶ。大人も、炭焼きや竹細工づくりなど、経験を活かして、子どもたちに伝承しながら世代をつなぐ活動もしてきました。その他、夏祭りや「どんどこや」など様々な地域の行事や活動で顔見知りになり、自然と挨拶が交わせ、安心して暮らせるまちになればと活動を続けています。

〈取り組みを始めようと思った経緯・きっかけ〉

“世代をつなぐまちづくり”

龍田中学校と龍田小学校に隣接するうっそうとした森を、子どもたちが自由な発想で考えた構想をもとに、地域住民の手で整備し「プレイパーク」が誕生しました。以来約 20 年にわたり、自然の中で遊び、学べる様々な活動が行われてきました。ターザンロープ、ツリーハウス、囲炉裏のある東屋やピザ窯など年々施設は充実しています。また「身近な森の音楽会」は「この場所、活動を多くの地域の方に知ってもらい、参加していただきたい」という思いで開催しています。地元の小・中学校の吹奏楽部や国内外のゲストを招き、竹明かりに浮かぶ幻想的な野外ステージでのコンサートは、今や地域の大きな行事の一つになりました。



〈まちづくりとのかかわり〉

龍田町は歴史ある地域ですが、宅地開発も進み、新しい住民も増えています。新旧住民がお互い理解を深め、新しいことにともにチャレンジするのは容易ではありません。

理屈ではなく率先して汗を流し、ともに活動することで少しずつ地域に認めてもらう。会議では、出席者には基本全員に発言してもらい、当事者としての意識を持ってもらう。そして丁寧に議論することを心掛けてきました。

〈今後の展望〉

今後は「龍田プレイパーク植物図鑑」の作成、コロナ禍で中断してしまったニューヨークでの「竹プロジェクト」などの海外との交流も再開していきたいですね。



NPO 法人 龍田共育ネットワーク
理事長 新道 欣也 さん